

全8曲を聴き、生内先生の作風の特徴について、素人ながらいくつか感想を述べてみたい

### 1. ♭, #と

曲中メロディの推移のなかで、半音記号を付けた部分が多くあり、従って譜面には♭、#や などが数多く表れ、一寸気取ったメロディの感じあり。

### 2. リズムの変更

50年ぶりに北上川を聴いた時、後半部分にC→3/4の変換の部分の所で、即スメタナの「我が祖国 モルダウ」を想い浮かべた。その後他の曲を聴くと、交声曲三部作や平和の曲では必ずリズム変換しており、それがメロディの美しさを一層ひき立て、聴衆に心地良いリズム感を与えているように思える。

### 3. 転調

交声曲の中では随所に転調箇所があり、メロディの美しさを追求してのテクニックかなと感ずる。ただ歌う団員側からは大変苦勞だったのではとも思われる。

### 4. 休止符の活用

多く目立つのは各節の初めの部分に や などを使い、曲の流れが歯切れよくなっている。

### 5. ハミングの併用

交声曲「平和」ではハミングをベースに歌う箇所があり、当時としては新しいテクニックだったのかとも思う。

### 6. 連符

「岩手山」「北上川」などには3連符、5連符が使用されている。とりわけ「岩手山」の伴奏部分の5連符はヴァイオリン演奏の技法をとり入れたらしく、先生がヴァイオリン奏者だったことで肯ける。

総じて半世紀前、戦後の日本の社会情勢から鑑みても、20代半ばの青年教師が情熱を傾け、メロディの美しさを求め、リズムの変化で聴衆の心を惹き更に交声曲の名の通りハーモニーを重んじ、正に音楽の三要素を追求したなんと文化的香り高い作品群かと感じた。